

レジメンcode:	C85-35
適応がん種:	非ホジキンリンパ腫
レジメン名:	DA-R-EPOCH
間隔:	3週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	リツキシマブ(リツキサン)	375	mg/m ²	点滴[*1]	d1
VP-16	エトポシド(ベプシド)	50	mg/m ²	点滴(24時間)	d2~5
ADM	ドキシソルビシン(アドリアシン)	10	mg/m ²	点滴(24時間)	d2~5
VCR	オンコビン	0.4	mg/m ²	点滴(24時間)	d2~5
CPA	エンドキサン	750	mg/m ²	点滴(2時間)	d6
PSL	プレドニゾン	120	mg/m ²	内服	d2~6

*バーキットリンパ腫の場合は、中枢神経系浸潤予防としてC99-04 MTX髄腔内投与を考慮する。

★ADM 総投与量 500mg/m²以下

day1

1) カロナール	200mg	2錠	
d-クロルフェニラミン		1錠	
	内服		リツキシマブ投与30分前

day1

1) 生食	50ml	1本	内服前投薬、心電図確認 ルート確保
2) リツキシマブ(リツキサン)		375 mg/m ²	
生食	500ml		生食で10倍に希釈
主管①	点滴		*1]初回は25ml/hr→100ml/hr→200ml/hr と1時間ごとに投与速度を上げる 2回目以降は100ml/hrから開始
3) 生食	50ml	1本	フラッシュ
4) ヘパリンNaロック	10ml	1筒	ルートロック

〈所要時間 約6時間〉

次ページあり

day2

1) グラニセトロン	3mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	15 分 【ケモセーフ使用】
2) エトポシド(ベプシド)		50 mg/m ²	
ドキシソルビシン(アドリアシン)		10 mg/m ²	
オンコピン		0.4 mg/m ²	[*2]エトポシドの投与量が200mg/日を超える時は生食1000mlへ変更する
生食	500ml[*2]	1 袋	
	主管②	点滴	24時間

〈所要時間 - 〉

day3~5

1) エトポシド(ベプシド)		50 mg/m ²	
ドキシソルビシン(アドリアシン)		10 mg/m ²	
オンコピン		0.4 mg/m ²	[*2]エトポシドの投与量が200mg/日を超える時は生食1000mlへ変更する
生食	500ml[*2]	1 袋	
	主管①	点滴	24時間 前日の主管に続いて
2) グラニセトロン	3mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	▶側管①	点滴	15 分

〈所要時間 - 〉

day6

1) グラニセトロン	3mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	15 分 前日の主管に続いて
2) エンドキサン		750 mg/m ²	
生食	250ml	1 本	
	主管②	点滴	2時間
3) 生食	50ml	1 本	
			フラッシュ

〈所要時間 2時間30分〉

day2~6

1) プレドニゾロン		120 mg/m ²	
	内服	朝・昼食後	

day7~好中球数 5,000/ μ L 以上になるまで継続

1) フィルグラスチム	75 μ g	1 筒	
		皮下注射	1日1回

次ページあり

* 投与量増量・減量基準

Nadir measurements	Dose-adjustment [*3]参照
好中球数最低値 $\geq 500/\mu\text{L}$	エトボシド、ドキシソルピシン、エンドキサン 最終投与量の20%増量
好中球数最低値 $< 500/\mu\text{L}$ (1または2計測ポイント)	最終投与量と同一用量
好中球数最低値 $< 500/\mu\text{L}$ (3計測ポイント以上) もしくは 血小板数減少 $< 25000/\mu\text{L}$ (1計測ポイント以上)	エトボシド、ドキシソルピシン、エンドキサン 最終投与量の20%減量 *ただし、エトボシド、ドキシソルピシンは、開始用量 未満への減量を行わない。

* 末梢血検査は週2回実施すること。(中2日間空けることを推奨)

[*3]投与量Level増量・減量表

	Dose Level							
	-2	-1	開始用量 Dose Level 1	2	3	4	5	6
エトボシド(mg/m ²)	50	50	50	60	72	86.4	103.7	124.4
ドキシソルピシン(mg/m ²)	10	10	10	12	14.4	17.3	20.7	24.8
エンドキサン(mg/m ²)	480	600	750	900	1080	1296	1555	1866